

診療科特集 Vol.7

小児科



小児科には10名のスタッフ、3名のレジデントと3名の非常勤の女性医師がいます。

そのうち、未熟児・新生児部門が6名、一般小児部門が7名で幅広い分野について対応しています。現実的には、

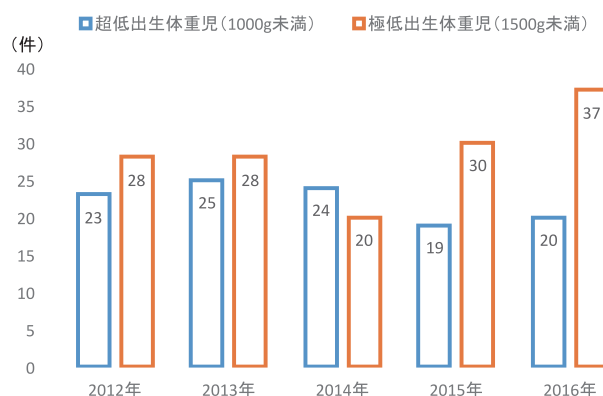
2系統で24時間365日対応するような当番・当直体制で動いています。その中でも特に①未熟児・新生児領域 ②小児循環器領域 ③神経領域(てんかん)の3分野では専門医療を展開しています。

① 未熟児・新生児領域

長崎県総合周産期母子医療センターの一翼をにない高度専門医療を行っており、長崎県の未熟児・新生児医療をリードする役割を担っており、日々の診療に加え、若手医師の育成にも努力しています。

毎年250-300例の入院に対応していますが、そのうち超低出生体重児(1000g未満)、極低出生体重児(1500g未満)の取扱件数は表①に示す通りです。

緊急母体搬送には積極的に対応しています。病床の都合で他院へ搬送せざるを得ない場合がありますが、極力そのようにならないように努力を続けています。4月から東京女子医大より未熟児専門医を迎え、更なるレベルアップを期待しています。



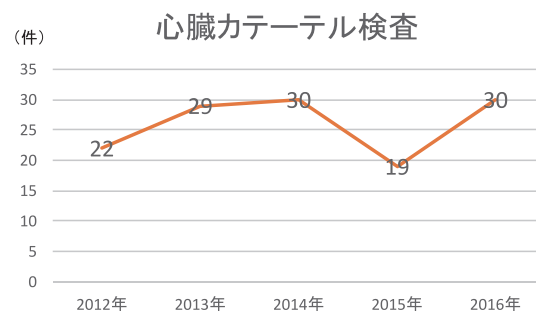
表①

② 小児循環器領域

小児循環器領域では2名の専門医が心臓カテーテル検査を行っています。県内の約80%の症例の検査を当院で行っており、年次推移は表②に示す通りです。

また、近隣地区の学校健診での心臓健診において精査が必要となった症例の対応も毎年行っています。複雑心奇形の赤ちゃんが出生し、早急に心臓外科対応が必要な重症例については、福岡市立こども病院や地域医療機能推進機構九州病院(旧：九州厚生年金病院)などと連携して診療にあたっています。救急搬送については救急車だけで

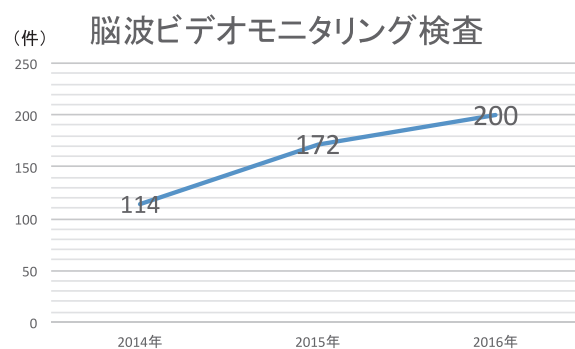
なく、当院のドクターヘリによる搬送も検討していただき、出動することもあります。



表②

③ 神経領域(てんかん)

以前より専門医療を行っていましたが、近年はてんかん外科治療を希望される症例が全国から訪れており、脳外科のてんかん専門医とチーム医療を展開しています。診断・術前評価・術後評価などにはビデオモニタリング検査(VEEG検査)が必須となりますが、小児病棟でも計画的に対応しています。最近3年間の検査件数は表③のように増加傾向を示しています。2017年4月よりてんかん専門医の資格を有する小児科スタッフを迎え、より充実した診療が期待できると思います。



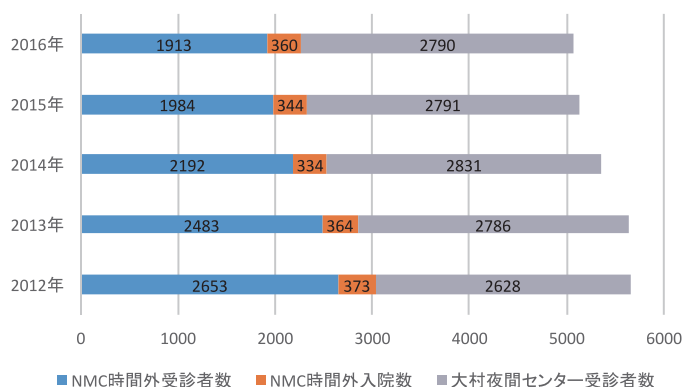
表③

一般小児の急患対応

一般小児の急患対応については24時間、365日、県央地区の基幹病院として対応しています。表④は時間外受診者数の年次推移を示しています。少子化の影響もあると思いますが、19時から22時の時間帯は毎日大村市夜間初期診療センターが開設されており、役割分担ができていると思います。受診者数の減少は認められますが、時間外入院数についてはほぼ横ばいで一定数の入院がみられてい

ます。これは一般小児入院総数の約1/3を占めており時間外の業務負担は変わりありません。

小児科としては周辺地域のこども達ばかりではなく、より多くのこども達の健やかな成長のお手伝いができる事を目標にこれからも日々頑張っていきたいと思っています。



表④